「内服管理業務におけるアクシデント防止のための業務カイゼン」
～病棟と薬剤科の連携強化～

病院名	**医療法人財団利定会　大久野病院**
職種・演者	**看護師**　加藤寿子
共同演者	鈴木実枝　大宮寛美　須嵜由起子 宮林皇史　岸下結花　森松静 進藤晃

【目的】

当院、医療療養病棟における入院患者の重症化に伴い使用薬剤が増え、内服管理業務が煩雑となり内服管理に関するアクシデントが増加した。内服管理に関するアクシデントは、薬剤アクシデントの中で8割程を占めている。今回、内服管理に関するアクシデントに着目し、方法を見直し対策を行った。その結果、内服管理に関するアクシデントが減少したので報告する。

【方法】

・H27年病棟内服管理業務について、プロセスフローチャート(以下PFC)を使用し問題点抽出及び内服管理業務新手順書を作成。
・H28年11月末より試験的に当該病棟より新手順を開始、H29年1月より全病棟新手順開始。
・毎週木曜日、薬剤科とミーティングを実施し新手順を調整。
・内服管理業務に費やす時間の調査。
・アクシデント件数調査。

【結果】

・内服管理業務に関連したアクシデントがどの工程で多発しているか明確になった。
・手順が複雑で作業工程が多かった内服管理業務の作業工程が減った。
・配薬業務を薬剤科に移行する事が出来た。
・病棟における配薬業務時間がなくなり、患者の与薬に時間をかけることが出来るようになった。
・介助による「飲み忘れ」「配薬ミス」「投与忘れ」のアクシデントが減少した。

【考察】

PFCを使い内服業務の見直しを行う事でどの工程に問題があったかが可視化された。その結果、アクシデントが多発する配薬を見直すことができ、新たな手順を構築する事に繋がった。また、患者が薬を服用する工程である与薬にかける時間が増えたことにより、看護師が患者の与薬を完了するまで確認する事が出来るようになった。元の業務は、配薬業務工程が複雑で多くの時間がそこに割かれ、患者への与薬の場面に時間を割くことが出来ずアクシデントが増加していたと考える。また、薬剤科と病棟とのミーティングで両部門の意見を取り入れながら手順を調整したことで2重業務の削減や間違えにくい仕組みができ、効果的な手順となったと考える。内服管理の指示受け作業の工程は、医師の意見を取り入れ手順を見直した事も効果的であった。

【結語】

今後も内服管理業務の新手順について評価を行い、内服に関するアクシデントゼロを目指していきたい。

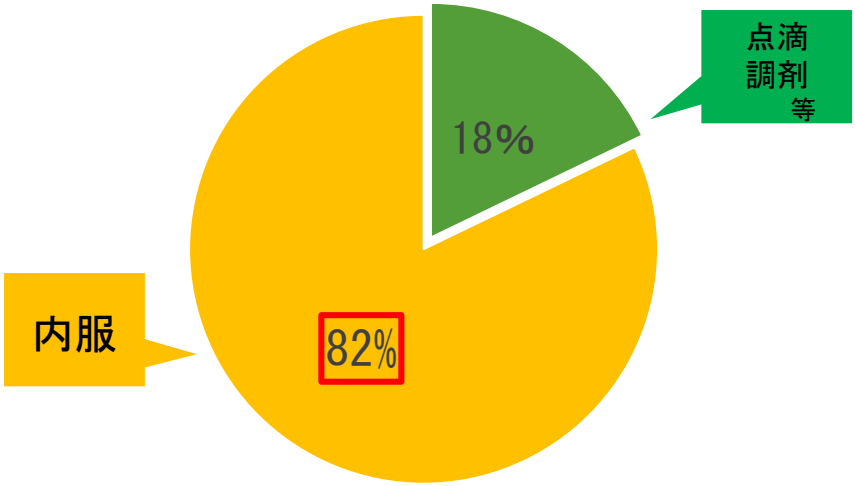
内服管理業務における アクシデント防止のための 業務カイゼン

～病棟と薬剤科の連携強化～

医療法人財団利定会 大久野病院
○加藤寿子、鈴木実枝、大宮寛美、須嵜由起子、
宮林皇史、田中春美、岸下結花、森松靜、進藤晃

目的

平成27年　薬剤関連Ｉ・Ａレポート割合



医療法人財団利定会
大久野病院

方法

内服管理業務について問題点を抽出

↓

内服管理業務新手順決定

薬剤科とミーティングを実施し手順決定・調整

↓

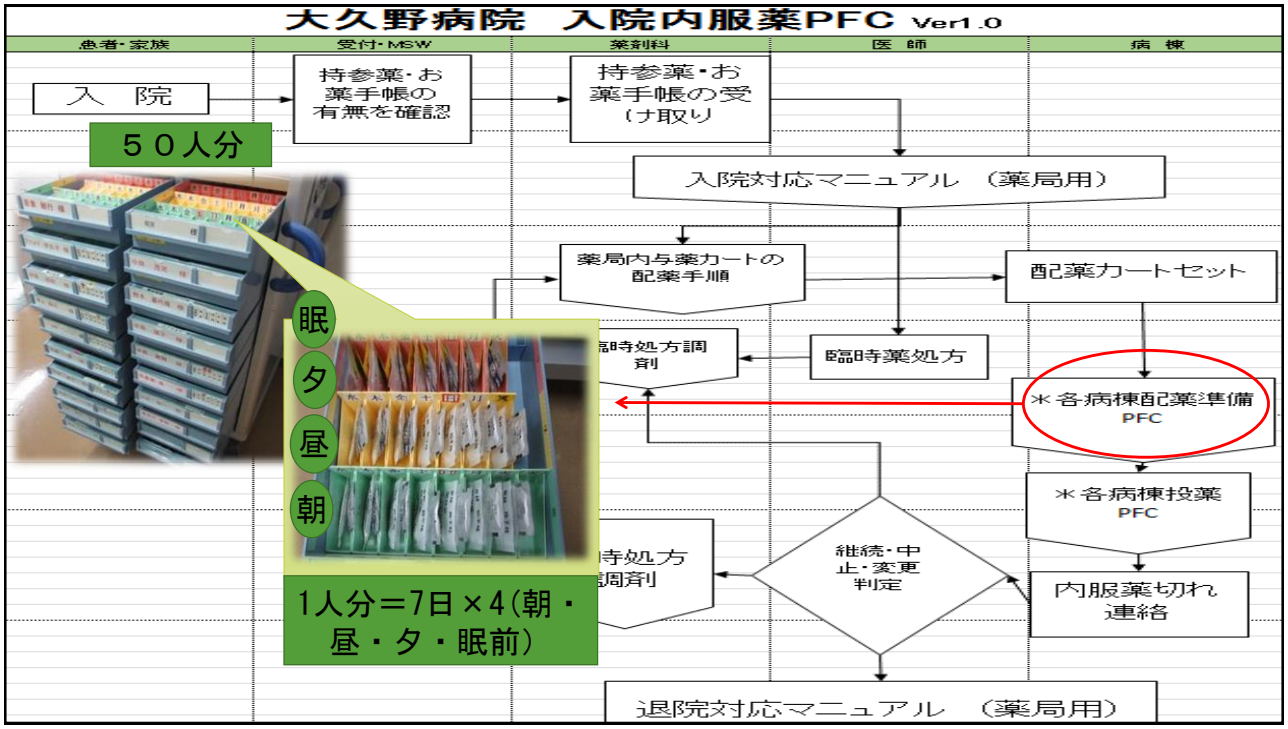
平成28年11月末より試験的に該当病棟より新手順開始

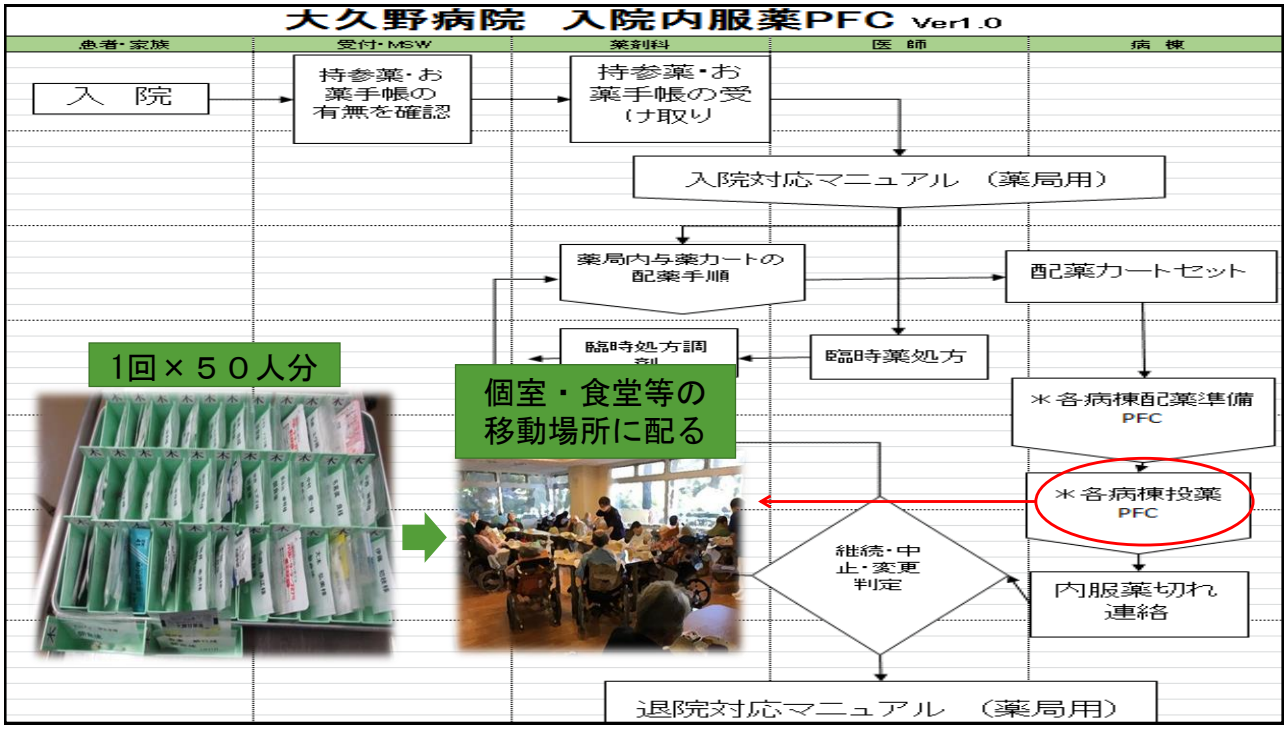
内服管理業務に費やす時間の調査
アクシデント件数調査

↓

平成29年1月より全病棟新手順開始

医療法人財団利定会
大久野病院





薬剤科との連携

毎週定期的に薬剤科とミーティングを実施

↓

調剤から投薬までの業務分担の見直し

↓

新手順実行

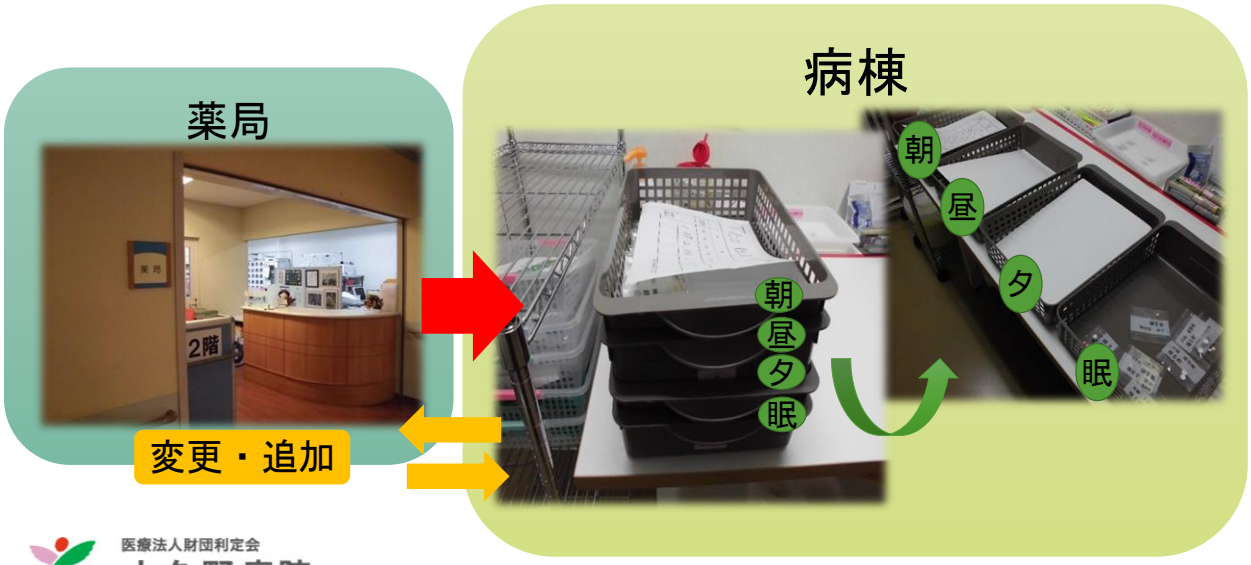
↓

新手順の調整

確実な投薬方法とは？

医療法人財団利定会
大久野病院

新手順　工程1



医療法人財団利定会
大久野病院

新手順　工程2

医療法人財団利定会
大久野病院

新手順　工程3

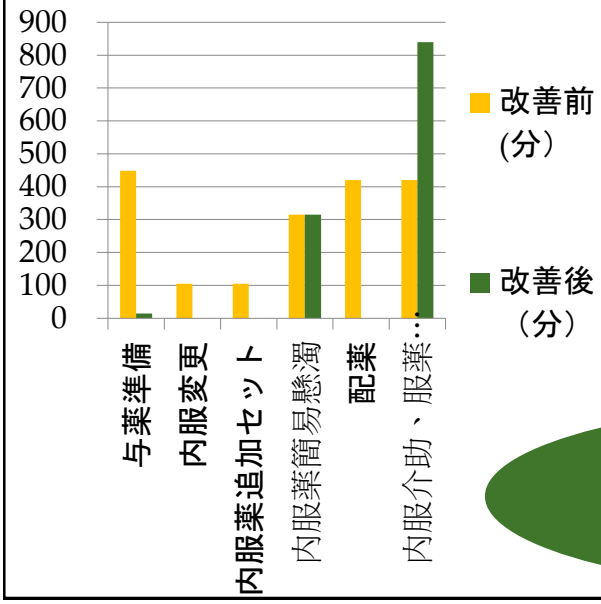
投薬

空カゴを薬局へ返却

薬局

医療法人財団利定会
大久野病院

結果

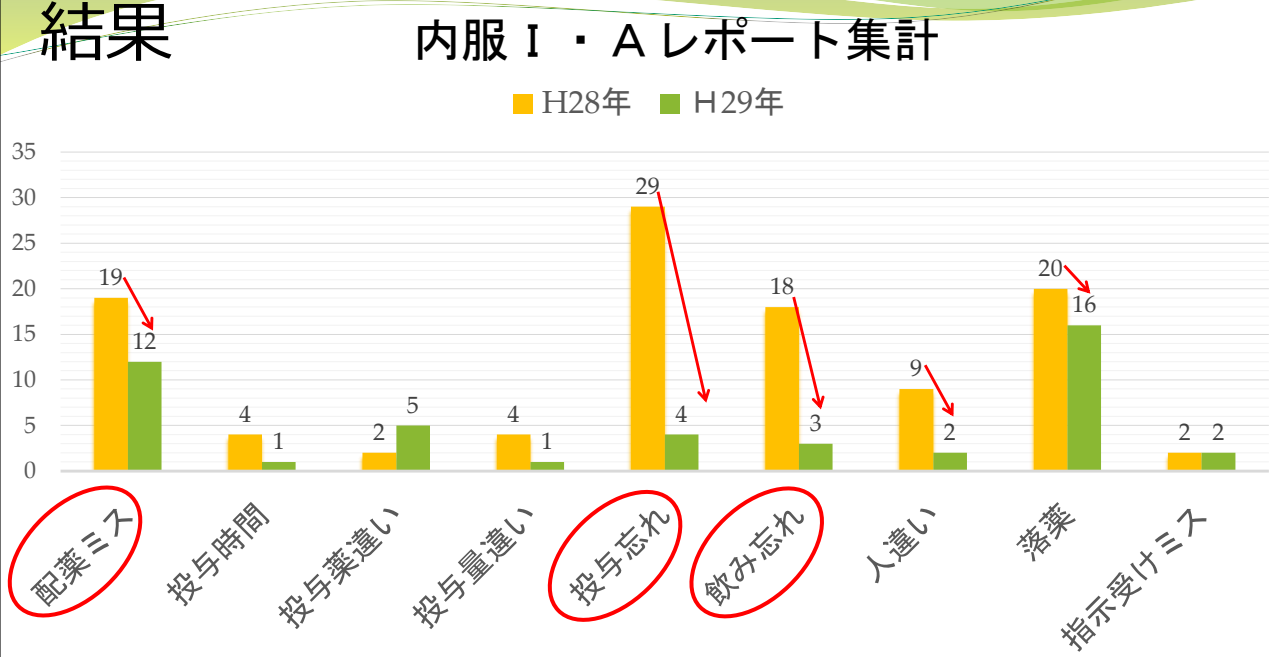


内服業務/週	改善前;分	改善後;分
与薬準備	448	14
内服変更	105	0
内服薬追加セット	105	0
内服薬簡易懸濁	315	315
配薬	420	0
内服介助服薬確認	420	
	30時間13	19時間29

業務時間削減/週
（10時間44分）

患者の内服介助と
確認時間が増加した

結果



考察

- ＰＦＣを用いて手順のどこの部分に問題があるか把握し、新手順に繋がった。
- 内服介助服薬確認の時間が増え、投薬を完了するまで確認することが出来、アクシデントが減った。
- 薬剤科とのミーティングを行い、ミスが発生しづらい仕組みができ、効果的な手順の作成に繋がった。

医療法人財団利定会
大久野病院

結語

新しい手順を開始したが、まだ手順の評価は不十分な状況であるため、今後更に内服に関するアクシデントゼロを目指し、組織的な業務改善を進めていきたい。

医療法人財団利定会
大久野病院